

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前    | 得点/500 | 北郷主審講評  | 安田先生講評   | 顧問審査員講評   |
|-----|------|-------|--------|---|--|---|
| 1   | 大阪学芸 | 渡邊 奎依 | 335    | 音だけで情報や内容を伝えるためにはもう少し間が必要です。<br>冒頭、世界に誘っていく間を工夫してください。  | 本文に入る前のポーズが短すぎ。事実の説明をしている箇所に、不思議なムードが出ている箇所があります。自然なイントネーションが身にきていないと思います。被修飾語だけ急に高くする読み方が癖になっていると思います。朗読だけでなくニュースやお知らせも練習して、放送部アナウンサーとしての力を高めてください。 | タイトル後、間が欲しい。早口。会話(セリフ)前後に間が欲しい。語尾の処理が甘い。声質合わない。加地の「見える」の表情×直也の「見える?」×。間の工夫があればもっと良くなる。イントネーション×。単調な読み。イメージするための間がほしい。地の文と会話文が聞いていて区別できない。うねり。意味で区別できていない。セリフと地の文分らない。一定のテンポ。読みの息。速い。誰が誰?            |
|     |      |       |        |   | 景色に見とれて発した言葉に違和感があります。「ままだった」だけ高いのはおかしいです。   | セリフ「わあ」工夫が必要。声の調子変える所は? うねる読み方。「わあきれいな景色ですね」不自然。ブツブツ。「だまったママ」   |
| 2   | 相愛   | 中辻 理菜 | 354    | 音の高低はバリエーション豊かに使えていると感じました。<br>間をもっと大きく使って、情報を伝える工夫を。   | 「風の道筋」をもっと積極的に伝えたい。「様々に」のあとの「風は」は、つぶれないほうが良いと思います。「シンナーたり」になってしまった。「一味」だけ高いのはおかしいです。「豚肉なら」のあたりで横開きになった。「光や」のアクセントが違います。「これですよ」のあとのポーズが無いほうが良いと思います。  | 間の工夫がもう少し欲しい。みちすじ。干します。もう少し低い所を使いたい。緩急にも工夫ほしい。下げるところをしっかりと下げたい。表現の変化工夫しようとしている。間の工夫あればもっと良くなる。うねり残る。中ほどの部分少し速くイメージしにくい。メリハリあり。工夫は見られ、その部分はイメージしやすい。落ち着いた読み。列挙の表現通じてこない。長い文の処理△。もう少しゆっくり聞かせた方が。抽出長い。 |
|     |      |       |        |   | 「雨上がり」は「めあ」を高く。「いたいはいびよう」になってしまった。最後の文は、そんなにがっかりしないでいいと思います。   | 早口。生まれ育ったからとにかく早い。「わあ」の表情。スピードコントロールできればもっと良くなる。メリハリのある読み方。「ポツリ」の表現。地の文もっと聞かせて。   |
| 3   | いちりつ | 濱田 柚音 | 入選     | 様々な間や緩急をつけて情景を伝えることができていました。  | 「平松」は「ら」だけを高く。「みれば」のアクセントは要りません。「台所の」が低いのはおかしいです。「艶やかな」のあとの言葉が聞き取れませんでした。「欠けば」のアクセントが違います。「そうなのだ」は、そんなに子供っぽくはしゃぐ必要はないと思います。                          | 「わたし調味料です」の表情? ちよろり。低い音をもう少し使いたい。ずり上がる読み残る。後半よい。表現工夫しようとしている。メリハリのある楽しい読みかたでイメージわく。楽しい雰囲気あり。  |
|     |      |       |        |   | 「神通大橋を渡ったとき」は事実なので、残念そうに言うのはおかしいです。  | セリフ強い。「かなしさ」アクセント注意。前半と後半の切り替え。速い。単調な読み方。心境の変化が分かりやすい。聞き手とシンクロして。   |
| 4   | 箕面自由 | 矢森 楓大 | 362    | 自分の声に合った部分をうまく選んでいると感じました。<br>台詞と地の文の変化も丁度良く感じます。<br>しかし早いので、ゆっくりと情景を伝えてください。                   | ややマイクから遠い。意味の切れ目と音の切れ目が合わない箇所があります。実況文の述語動詞は、つぶさないほうが良いと思います。「払って」は中高です。良い声だけど、放送部アナウンサーとしてみると、発音が不明瞭です。   | セリフから始まるならタイトルの後もう少し間が欲しい。間が一定。低い声が魅力的だが少し苦しく聞こえる。表情過多。速い。声活かしている。勢いでいっている感。緊迫感のある場面なのでスピードはいいとして、間がもう少しあればイメージしやすい。緊迫さと速さは違うので、場面じっくり描いて。地の文をもっとじっくり聞かせて。1つ1つの言葉を聞かせて。                             |
|     |      |       |        |   | 切り替えがうまくいきませんでした。全く別の声に変えるんじゃないで、自分の朗読の「中心線」を作ってほしいです。   | セリフ工夫必要。早口。前半と後半の切り替え。間の工夫ほしい。間の工夫がほしい。地の文聞かせて。   |
| 5   | 浪速   | 大里 卓也 | 5位     | 聞き易い声です。<br>ただ少し、自分のクセで読んでしまっているように感じました。<br>間は、たっぷり使えているところを活かすために、もう少し間を短くする部分があってもいいかもしれません。 | 「みかん」の前のポーズが長すぎ。音量が不安定です。マイクとの距離も、読みながらぶれてしまったかな? 吹かれに注意。「小娘はいつかもう」という塊ではないと思います。「そうしてまた不可解な」ではないと思います。何と何と何を忘れたかな?                                  | マイク注意。最後一文良い。少しフレーズが短い。低いところから出るところあり。苦しそう。緩急工夫している。間Good。イメージしやすい。メリハリのある読み。やや癖のある発音。意味を捉えたテンポを。区切る場所をもっと工夫して。変な締め(クセ)。  |
|     |      |       |        |   | ぼつりと言い終わってからの「ぼつり」とは、そんなに演出しなくていいと思います。  | 美しさとしさどか思い入れ強い。演技多。マイクに近づきすぎ、吹かれに注意。落ち着いた読み。「ナラった」。やや演出過剰か。   |

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前     | 得点/500 | 北郷主審講評   | 安田先生講評   | 顧問審査員講評   |
|-----|------|--------|--------|--|--|---|
| 6   | 桃山学院 | 亀井 和佳奈 | 348    | 意味のまとまりで読もうとしているのを感じましたが、相手に情景を伝えるためのスピードや間をもう少し考えてみてください。より速くに伝えようとする工夫も。 | 「思い出しながら」のあとには、何らかの切り替えがほしいです。地の文が低音になりすぎている箇所があります。「両目をうるませってきた」になっています。「引く張られて」の「ひ」は無声化。力が湧いてきていないように聞こえます。「6組」は頭高アクセントです。「そくだ」の前のポーズが長すぎ。                           | 1つめの「えきいん」アクセント注意。はじめ早口。冒頭聞き取れない。全体にもっと丁寧に。セリフよくない。声響かせて。速い。場面流れていく。はじめの方速いので、イメージしにくい。メリハリをつけて読んでいるが、伝えようというところで少ない。後半いい感じになってきたが、場面を聞き手に聞かせて。テンポ一定。うねり。抽出長い。自分の感情で読まない。 |
|     |      |        |        |  | 「雨上がり」のアクセントが不鮮明です。全体として、もうちょっと地声の威力を高めたし、無理なら、マイクに近づいて読みたい。です。「見え方」のアクセントは中高がいいと思います。   | セリフ工夫が必要。「わあ」の表情。運転手の声。表情の転換。表現の工夫。間ももっと工夫しよう。冒頭からくらい。表現の差を。  |
| 7   | 相愛   | 辻本 明日美 | 3位     | 雰囲気や表情のある声ですね。ただ一つ一つの言葉が少し伝わりにくく感じました。マイクの使い方？ 発声？ 工夫してみてください。             | 発音の横開きに注意。「あきらめて」は、つぶれないほうがいいと思います。「最後」と「違い」の関係を見直して。考えてみた内容、もっと積極的にいいと思います。「焼けてしまう」が、やや不鮮明でした。  | 語尾マイクを通すと聞こえづらい部分があり、ぼそっと処理しないように。低いところ、弱い所もしっかり聞かせて。場面浮かぶ。表現工夫できている。声はいいが…。落ち着いた読み。音のかすれ。場面作りOK。文末「した」にクセあり。朗読とは何か考える。   |
|     |      |        |        |  | 冒頭の切り替えはうまくいきました。「運転手さん」の「しゅ」は無声化。「だったなんて」で終わったように聞こえました。  | 丁寧に読んでいる。地の文よくできている。  |
| 8   | 関西千里 | 肥後 有咲  | 入選     | 緩急山を色々工夫して伝えていると感じます。クセにならないよう、もう一度意味を伝える意識を。                              | 「ひらまつようこさく」の「こ」が発音できていません。「ちょっと待った」のあとのポーズが長すぎると思います。「熱す」は、そんなに妖艶に言わなくていいと思います。「それは」から急に騒々しくなりました。「あおて」に聞こえます。「一つ」を演出しないでいいと思います。「いかばかりか」は、疑問ではないはずで。手前の息継ぎは要らないと思います。 | 「…はやる」語尾下げる。句末文末下げるところは下げる。ところどころ聞き取りにくい所あり。緩急工夫している。少しマイクに近く、低音が強くなってしまいました。マイク近い。意味を考えて語ろう。また読みの息です。妙な演出あり。もっと自然に。  |
|     |      |        |        |  | 語尾伸び注意。「いたら」になってしまいました。中盤から残念そうな語り口が続きました。   | 「…言ったら」等語尾長い。後半しっかり切り替えて。うねり残る読み。イメージはつかめた。地の文、意味を考えて伝えて。   |
| 9   | 府天王寺 | 金山 麗愛  | 350    | 声に表情を載せる工夫を色々としていますね。自分と本の間に世界を作り上げている感じがしました。相手に届ける気持ちをもっと持つて。            | マイクから遠すぎたかな？「ぬるさ」のアクセントは頭高です。全体が演出過剰だと思います。放送部のアナウンサーとしての伝達力があるのか無いのか、評価が難しかったです。「ざらざら」とか「ひんやり」とか、そういう言葉は音の演出に便利のように思えるけれど、やりすぎると独り相撲になります。                            | 盛り上がり自然でない。マイクとの距離もう少し考えて。思い入れ強すぎる。テンポ速い。歌うような演技調の読み。楽しそうなメリハリのある読み。マイク近い。自分の気持ちよさで読まない。変な演出をしない。誰がどう語っている？ 読まずに語ろう。  |
|     |      |        |        |  | 全体が囁きになってしまったと思います。ニュースやお知らせのアナウンスも勉強して、放送部アナウンサーとしての力を高めてください。  | 運転手のセリフ、ポツリの意味考えて。地の文不自然な間あり。今一つ伝わらない。表現変化しようとしている。ポツリと言っていない。地の文考えて。   |
| 10  | 府堺西  | 田井 千尋  | 入選     | 聞き易い落ち着いた声です。高低の幅をもう少し広げるとより表現が豊かになると思います。                                 | 地の文は、音域をもう少し広く使ったほうがいいのでは？ しゅんすけのせりふ、次々に読みすぎていると思います。「ゆがませる」は平板。加地先生は、そこまでさわやかかな？ 地の文よりも明るい発音でしたね。   | 加地先生の心の声と会話文の違いが分からない。俊介の表情違う。音の幅もっととると良い。イントネーション気になるところあり。落ち着き〇。「顔を」の音。場面を描こうとしている。セリフよい。自然な息。  |
|     |      |        |        |  | 「とーもわず」は聞き取りづらいと思います。課題文のほうが、音域を広く使って自然に読めていたと思います。  | 早い。「美しさ」の無声化注意。今一つ伝わらない。サクサク進んだ感じあり。もう少しゆっくり場面を理解したい。   |

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前     | 得点/500 | 北郷主審講評   | 安田先生講評   | 顧問審査員講評   |
|-----|------|--------|--------|--|--|---|
| 11  | 府豊中  | 濱田 侔乃  | 330    | 間が自分の息づかいになっていて意味が伝わりにくい所がありました。<br>文の持つ息遣いをもう一度考えてみてください。                                   | 本文に入る前のポーズが足りません。「つぼみ」は尾高ではなく平板だと思えます。「柔らかに」のアクセントは、「わら」だけ高く。「いち早く」だけ高いのは違和感があります。「いそいそ」は、二つに分けられない言葉です。   | タイトル後間が欲しい。ラ行のすべりあり。語尾長い。「いそいそ」アクセント注意。表現不自然。一語一語もっと丁寧に。句末落ち着かない。フレーズ短い。うねる読み。読み方や声は場面に合っている。イメージもしやすかった。言葉が伝わってこない。誰に向かって伝えていきますか？ テンポ一定。何を伝えたい？               |
|     |      |        |        |  | そんなに大声で言った？ 「うまれそらった」に聞こえました。  | セリフ、タクシー内でそこまで大声で言うかどうか考えてみて。「わあ」の表情。生まれ～以下の文。場面をイメージして読むともっと伝わる。セリフだけ頑張りすぎ。  |
| 12  | プール  | 中谷 鈴果  | 328    | 後半は自然な息づかいに近づいていっているように感じましたが、前半の息づかいや高低が不自然で意味が伝わりにくくなっていました。<br>自然に話すとしたら…と考えて音をとってみてください。 | 1文目を無理やり一息で読む必要は無いと思います。「ばっかり」だけ高く強くなる演出は、ここには合わないと思います。「もう開かれた」に聞こえます。「当然のように」だけ急に高いのは違和感があります。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。                                   | うねりあり。アクセント再度細かく確認を。地の文と私の文の区別をして。低いところまでおとそう。うねる読み。意味の塊を考えて読み方意識しよう。冒頭をもっと大切に。情報についていけない。うねり。読みの息ではなく語りの息で。  |
|     |      |        |        |  | 「雨上がり」が、ちょっとだけだるい感じになってしまった。「同じ」の次の「川」が不鮮明でした。   | ボツリの意味を考えてセリフ表現しましょう。「言ったら」の後のポーズ「生まれ育った」の表情。音のつづれ。意味の伝え方もっと工夫を。  |
| 13  | 相愛   | 林 夏香   | 入選     | 会話の部分は自然に伝わってきたのですが、地の文が惜しい。<br>地の文の高低や間を自然に伝える気持ちで是非読んで欲しいです。                               | 母音の発音が子供っぽくならないように注意。「できないんだよ」は、そんなに少女っぽくなくていいと思います。「何が悪いの」も、そんなに張り切らなくていいと思います。「大事だよ」と「お母さん」が分離しないほうがいいと思います。中盤からは良くなりました。最初の母のセリフが含まれぬ抽出に変更してもいいと思います。 | セリフ表現よい。お母ちゃんの声の表情、私の声の表情。セリフ、地の文しっかり切り替えようとしている。場面伝わってくる。幅をとって表現しようとしている。内容が入ってくる読み方。ちょっと大げさ感あり。セリフばかり。演技の評価ではないので抽出をきちんと。地の文しっかり。音聞き取りやすい。                    |
|     |      |        |        |  | 「じんづ大橋」になってしまいました。「いたい病」になってしまった。「知らなかった」を感動的に言う必要は無いと思います。  | セリフ運転手と自分の距離感もう少し考えて。台詞の表情。「生まれ育った」の扱い。「わあ」演技過剰。「全然知らなかった！」って知らないことを知った嬉しさのような表現おかしい。   |
| 14  | 浪速   | 高木 咲月  | 入選     | 聞き易い声の高さでした。<br>少し吹いてしまって聞こえづらくなる所が惜しいので、マイクの使い方、少し工夫するだけでより聞こえやすくなると思いますよ。                  | タイトルコールは、本文と比べたら少しだけだるい感じに聞こえました。吹かれに注意。「そば茶」は中高だと思えます。「なめの」に聞こえました。「こっくり」とを演出するのは違和感があります。やっぱりマイクに近すぎる。「千々に乱れる」を二つに分けないで。「これでいい」は、そんなにしみじみかな？           | マイクふいている。距離を考えて、1回ふいたら距離を変えようか。「である」もつと下げる。息をもっと声に変えて。あまり思い入れを強くない。イントネーション×。ずり上がり残る。マイク少し近く吹かれが多かった。間が、スピードはGood。もう少し語れるはず。「こっくり」「ぐぐっと」等演出過剰。中身を伝えるように語ってください。 |
|     |      |        |        |  | 「思わず」のアクセントは、「も」だけ高く。「習った」は「ら」だけ高く。上手に読んでいる部分もあるけど、声が全体として息づかいので、言葉聞き取るのに努力が必要でした。   | 「ならった」。落ち着きよい。  |
| 15  | 桃山学院 | 船渡川 日菜 | 352    | 一分一分を自分の読みやすいペースで表現してしまっているように感じる所がありました。<br>自然にお喋りする時の音の高低を確認してみてください。                      | 悲し気なタイトルコールでした。自然なイントネーションが身に着いていないと思います。「二人とも寝たか」が、夫婦の会話の一部には聞こえにくい。「俺は大丈夫」を子供っぽく言う必要は無いと思います。「こと」という形式名詞のアクセントは要りません。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。            | 浩一の声、そこまで低くなくてよい。あくまで自分の良い声の範囲で表現すべき。夫のセリフの表情。「俺は大丈夫」に表情つけすぎ。波打つような読み方。スピードは、間はGood。イメージよく読み方。うねり。間を工夫してセリフと地の文をやり取りを表現しよう。「妹に障害…」ずり上がり。                        |
|     |      |        |        |  | 「とーもわず」ではないほうがいいと思います。   | 運転手も同様、そこまで低くなくてよい。低いところが少ししんどそう。運転手低すぎて苦しい。地の文をもって表現して。  |

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前     | 得点/500 | 北郷主審講評   | 安田先生講評  | 顧問審査員講評  |
|-----|------|--------|--------|--|---|--|
| 16  | いちりつ | 東原 圭歩  | 360    | 一つ一つの言葉をはっきりしっかり伝えようとする意識は伝わってきました。ただそれゆえに文のまとまりが切れた情景が伝わりにくくなってしまった所がありました。 | ややマイクから遠いかな？「子どもあ」になっています。「勉強をするのは…と答えている」は、せりふにせずに間接語法でいいと思います。「けて…ではない」を積極的に言うんじゃないかと、その次が大事でしたね。「くれる」がしつこく聞こえます。「せんめんじゅに」に聞こえます。最後の段落は無くてもよかったかもね。                   | 語尾の処理が甘い。洗面所が「せんめんじゅ」にきこえる。「昔」のぼしすぎない。「そんなとき」の前にポーズ。地の文意味の塊を大事に読むともっと良くなる。読みの息ではなく伝える語りの息で表現しよう。列挙とまとめの部分の抽出どうか。テンポが一定。場面の転換分りにくい。   |
|     |      |        |        |  | 「そだ」の発音が雑でした。子音のSの発音を見直してください。  | 「かなしさ」アクセント注意。生まれ～で切り替えよう。   |
| 17  | 四天東  | 中田 帆香  | 351    | 自然に話せている部分も多く、その良さを失わないように。でも文章にもう少し表現。                                      | 吹かれに注意。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。「た」で終わる文末で、息を吐きだす音が聞こえます。「盗人」の「す」は無声化。「それほど」は何に係るかな？ 普段の自分の声で無理なく読める箇所を選ぶのも、大事なことだと思います。   | 語尾の息が残っており長い。低音がすれている。文末の処理息を止めて。フレージング△。高低抑揚不自然。速い。意味のかりが少しくまいていない読みでうねって聞こえる。間の取り方、スピードGood。文末の伸び気になる。表現工夫しようとしている。長い文の処理工夫を。地の文ももっとじっくり。急に音が強くなるのは不自然。                      |
|     |      |        |        |  | そんなに大声で運転手に話しかけたかな？「この場所だった」の「しょ」の発音が不鮮明です。   | 早口。「この場所」アクセント。「わあ」「昔」表情これでいいか。「わあ」が「ふわあ」になっている。運転手のセリフそれでいいか。   |
| 18  | 近大附  | 工藤 智馨  | 321    | 感情の高ぶりが豊かに表現されていますが、変化がなく、逆に意味が伝わりにくくなってしまいました。                              | 「一等最初に」をわざとらしく言うのは違和感があります。「浸す」の「ひ」は無声化。「きゅつと」などを演出するのは、あまりうまくいかないと思います。一人で歌い上げているように聞こえます。言葉が聞き取れないので、もちろん理解も難しい。「…もいいところ」の言い方が、その言葉を普段から使ってる人とは大きくかけ離れていたと思います。       | 語尾注意。もし上りが大きすぎて不自然。うねりあり。「いっとう」「たっぶり」思い入れ強すぎる。もう少し淡々と。聞き手をもっと意識して。うねる読み。歌うような読み。速い。滑舌。ちょっと大きき感あり。演出過剰。語る自然の息で表現を。うねり。浮ついた音。意味を考えて語ろう。歌ではない。                                    |
|     |      |        |        |  | 語尾伸び注意。「ゆったら」は誤った読み方です。   | 後半切り替えよう。ずり上がり。速い。語ろう。   |
| 19  | 相愛   | 山本 有里  | 1位     | 文章の意味を伝えるために、高低差を工夫していると感じました。情景が伝わってきました。                                   | 作者名だけが低く弱くなっています。「近づけない」とのあのポーズは要らないと思います。「対する」がしつこいです。「先」がthakiniになりました。「ばかり」とか「対する」が残ります。思っています。「必死でやってきた」は、そこまで迫ってこなくてもいいと思います。                                      | 「やってきたのだ」すべりあり。おもった。場面が浮かぶ。リスナーに伝えている。間の工夫している。場面に合った読み方。意味のまとまりをもう少し意識してほしい。落ち着きあり。じっくり描いている。場面伝わってくる。  |
|     |      |        |        |  | 切り替えがうまくいきました。「おまあず」になった。   | 「言ったら」の後にポーズ。「生まれ育った」違う表情で。地の文やや上がりすぎ？   |
| 20  | 府みどり | 笠原 千寛  | 337    | 素直に読んでいるという印象ですが、相手に伝えるという気持ちをもっと強くもって表現してみてください。間や緩急の工夫を。                   | 吹かれに注意。「変える意味」が不鮮明。加地先生のせりふ、そこまで事務的に早口にしないでいいと思います。「父親が塾に」のあたり、慌てすぎて不鮮明です。終わりが…時間の都合でしたね。   | タイトル後間がほしい。「なんて？」アクセント注意。文末処理。父親の声の表情に説得力がない。ここを選んだ理由？ 地の文セリフの変化をもっと工夫すると良い。情報をきちんと伝えて。速い。詰問口調ではないはず。ただ音読している感じ。抽出これでいい？   |
|     |      |        |        |  | 運転手に言う口調が大きすぎだと思います。「それが…」で興奮しすぎだと思います。   | 表現不自然。急に盛り上がり急いで落ちる。低い所が響かない。不自然な表情。「わあ…」だけ盛り上がる。地の文の上下はなぜ？  |
| 21  | 桃山学院 | 波多江 綾子 | 347    | 相手に伝えることを意識するともう少し間やスピードの工夫が必要です。聞き易い声なので是非表現の工夫を磨いてください。                    | タイトルコールが、本文よりも消極的になってしまいました。「その人は」のあのポーズがほしかったです。「なんという」から強くなった。そんな声が出せるなら、最初から使ってください。「それをこう」に違和感があります。「あの日」のあのポーズは無くてもいいと思います。息継ぎの直前の助詞が強くなりやすいです。「大きな」から急に高く強くなりました。 | 語尾が下がっていない。長い。「あらわれた」すべっている。地の文＝私の文に思い入れを強くしない。句末・文末処理。不自然な強弱。意味を理解した音の高低と少しずれていたところあり。文末下げ止まりしていた。もう少し間に工夫がほしい。でもイメージは浮かびやすい読み。伝える口調。「柿の葉の何というつややかさ」の演出不自然。丁寧に中身を伝えて、語ってください。 |
|     |      |        |        |  | 始まり方が残念そうに聞こえました。「とまらず運転手さん」になってしまいました。   | 神通大橋で一語で読む。「言ったら」の後のポーズ。句末処理。エッセイとしてベストな読みでした。   |

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前    | 得点/500 | 北郷主審講評  | 安田先生講評   | 顧問審査員講評   |
|-----|------|-------|--------|---|--|---|
| 22  | 府富田林 | 山本 梓  | 351    | 芯のある通る声ですね。台詞の表現力は豊かで伝わってきました。地の文は逆に引き算で考えてもいいかもしれません。                      | 誰が誰に向かってしゃべっているか分からない言葉ばかり続くので、場面がつかみにくいです。抽出の最初と最後はとても大事です。「胸を指す」で文が終わってしまったように聞こえました。アニメの中にしか出てこないしゃべりかたになっていませんか？ この二人は、どこでしゃべってるかな？ 公開討論会ではないよね？                                   | 先生のセリフがオーバーすぎる。演劇と朗読の違いを考えて。「立ち上がった」アクセント×。語尾注意。冒頭のセリフがわからない。先生（加地？）のセリフの表情。うねり多く感じた。表現工夫している。意味をよく考えて読んでいる。セリフは誰がしゃべっている？ 抽出ミス、それともセリフが読みたいただけ？ 加地って何歳？                |
|     |      |       |        |   | 「おもあず」になってしまった。「いたい病」になってしまった。「習った」のアクセントが違います。放送部アナウンサーとしての技術を身に付けて。  | 「ならった」。「かなしさ」を下げない。語尾伸び。意味の塊を考えて、スピードや間に工夫がほしい。地の文同じペース。  |
| 23  | 箕面自由 | 坂口 百桃 | 348    | 「情景の描写」と「内心の思い」表現に工夫してみるとよりよくなると思います。                                       | 「3番」は平板です。地の文がさみしそうです。ニュースやお知らせも読んで、アナウンサーとしての伝達力を身に付けて。お父さんは、そんなにハイテンションで反応したかな？ 「ないしー」と伸びてしまった。「対する」など、余計なうねりが出ている。  | 地の文が暗すぎる。語尾の処理、下がり切っていない。句末文末しっかり止める。奈月の視点からの文という意識を。文末でずり上がりあり。地の文しっかり読むともっと良くなる。一定。地の文でしっかり場面を描こう。長い文の処理きちんと。   |
|     |      |       |        |   | 「じんづお大橋」になってしまいました。そんなに大きさに感動したかな？ 「それがこのぼしだった」になってしまいました。   | セリフオーバー。「わあ」表情過多。地の文を語ってください。   |
| 24  | 浪速   | 山田 元気 | 357    | 低温のいい声だと思います。その分活舌の甘さを感じる所もあり、意味を捉えづらい部分もありました。自然に意味を伝える音の高低をもう一度考えてみてください。 | タイトルコールが、かなり厳粛になりました。「ゆっている」に聞こえました。低音がよく響くのは分かりましたが、この作品の読み方としては、ちょっと重厚すぎると思います。吹かれに注意。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。「B判定」のあたりから、やっ和高い音が使われるようになりました。せっかく自然に出せる声を、わざわざ封印してしまうのは、もったいないと思いました。 | マイクふいている。自分の声とマイクの距離考えて。「教務室」アクセント注意。声に不自然な力みがある。地の文を大切に。マイク近い。低い音でうねる。演技調に感じる。マイクが少し近い。吹かれに注意。伝えようとする読み方、間もいい。低い声苦しい。もっと自然に語って。演出過剰。そんなふうには普段しゃべりますか？ いい声だけれども、ただそれだけ。 |
|     |      |       |        |   | 「雨上がり」の「めあ」は同じ高さになるはず。課題のほうが自然に積極的に読めたと思います。「ぼついと」に聞こえます。「この場所」から強いのは違和感があります。   | 「わあ」強い。助詞「と」「悲しさ」下げない。「ならった」  |
| 25  | 府天王寺 | 平井 理愛 | 344    | はっきりと一生懸命読もうとしていることが伝わってきました。少し力を抜いて文の意味を伝える自然な息づかいを確認してみてください。             | マイクから遠いかな？ 文末まで全部遅く読む必要は無いと思います。「lemonわーたえる」になってしまいました。「じゅうく」だと思えます。語尾伸び注意。「今でも」は自然に言いたかった。「軽やかな」のあとの言葉が聞き取れません。「しよげき」に聞こえました。「余裕」のあとの「を」だけ高いのはおかしいです。放送部アナウンサーとしての基本的な伝達力が分かりませんでした。  | 「あたし、レモンティ」そっけない。「今でも」の“でも”を強調しすぎない。「ひとたらし」アクセント注意。「紅茶にレモンを入れ〜」高さや表情が不自然。最後の一文無くても。間の工夫あればもっと良くなる。スピード、間がよく、イメージつかめる読み。話し言葉の口調で表現しよう。浮ついた音。                             |
|     |      |       |        |   | 「おもあずんでんしゅさん」になってしまいました。「このぼしだった」になってしまいました。音に責任をもってください。  | 「生まれ」の一文の重み。地の文をしっかりと表現して。  |
| 26  | 相愛   | 浜本 茉莉 | 355    | 多くの言葉を丁寧に読んでいて、逆に何が伝えたいのか分かりにくくなってしまいました。強調の意味の言葉は意外と力を抜いて読んでも伝わりますよ。       | 作品名がやや不鮮明。「エルノラ」の「え」を低くできなかった箇所がありました。「そうだ」だけ高く強い？ ニュアンスが読み取れませんでした。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。「いっぱい」だけ急に強調してもだめです。何が詰まっているかが大事です。  | 語尾下がっていない部分あり。バスケットの中身の説明が多くて、朗読で楽しんでもらいたいのが何が不明。聞きやすい声。ちょっと大きき感あるが…。情報が多くて早いで話についていけない。地の文どうやって表現する？ 抽出ここがいい？  |
|     |      |       |        |   | 「ぼつりと」のアクセントは「つ」だけ高く。課題文のほうが自然に読めていたと思います。   | 後半早口。「わあ」×。「生まれ育った」の重み。エッセイとしてうまく表現できている。   |

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前     | 得点/500 | 北郷主審講評  | 安田先生講評   | 顧問審査員講評   |
|-----|------|--------|--------|---|--|---|
| 27  | 桃山学院 | 角安 佑彩  | 331    | 自分のテンポやクセになってしまっている所があるので、文の持つ高低や間をもう一度確認してみてください。                            | ややマイクから遠いかな？ タイトルコールからずっと、さみしそうに聞こえます。「懐」の「心」は無声化。意味の切れ目と音の切れ目が合わない箇所があって、理解が難しかったです。母音の切り替わりが不十分な箇所があります。ニュースやお知らせなども読んで、アナウンサーとしての伝達力を身に付けてください。                               | 語尾下がっていない。「昔」しっかり止める。もっと一音一音大切に。文末しっかり下げる。切り方不自然なところあり。母音クリアに。意味の塊で頭から息を出そう。うねり読み。口先だけで読んでいる感あり。文末消えている。調理スプーンをコミカルに紹介できていない。もっと雰囲気作って。                             |
|     |      |        |        |   | 「運転手さんになったら」になってしまいました。「習った」は「ら」だけ高く。  | 全体に弱いのはなぜ？ そんなに暗く入る？ 「ならった」   |
| 28  | 府箕面  | 福本 稜馬  | 4位     | 文末に向かってだんだん大きく高くなっていく読み方が少しクセのように聞こえました。芯の通った聞こえやすい声なので、自然に伝える読み方を工夫してみてください。 | 「みかん」の前のポーズが長すぎると思います。「3人」や「男の子」のアクセントがつかぬ感じがいいと思います。ちょっと音量が不安定。やかましく聞こえる箇所があります。声の強弱を使うのであれば、マイクとの距離も合わせて調整してください。「染まっている」のあとの「みかん」はとても大事です。「おすらくは」になってしまった。「怒から」の次の「投げて」も大事です。 | 声良い。不自然な強弱がある。八行弱い。演技調。緩急つけようとしているが速いところ少し速すぎたか。もう少し間があればイメージしやすくなる。落ち着いた読み。場面よく伝わる。「ほとぼらせた」。生き生きとした場面。   |
|     |      |        |        |   | 吹かれに注意。「と」から急に強いのは違和感があります。「うまれすだった」になってしまいました。見え方のアクセントは中高。   | 運転手と自分の距離感をもう少し考えて。「わあ」の表情。「わあ」はその表現か？ 「わあ」演出過剰。  |
| 29  | 関西千里 | 三浦 舞香  | 345    | 独特の世界観ある声や表現だと思います。持ち味は大切に、もう少し緩急をつけて「伝える」ことを意識するとよりよくなると思います。                | ややマイクから遠いかな。読む速度が、普段の話し方と違いすぎていると思います。「ちっちゃな」の「ち」は無声化。下からずり上がるイントネーションが癖になっていると思います。助詞が伸びるの癖になっていると思います。「すっかり」を大きめに言うのは違和感があります。「物思いにふける」でひと塊です。「ことに」のアクセントが邪魔です。                | 番号、タイトル等は重く読まない。(ほかの人を参考にしてみても)地の文重い。「ふけることに」の「ことに」を強調しすぎない。「思わずうなった」もっと自然でいい。テンポの遅さが不必要な感情移入を呼ぶ。スピード少し遅く不自然。音域うまく使って読めており、イメージしやすかった。タイトルからうねり。意味を考えて伝えて。雰囲気あってない。 |
|     |      |        |        |   | 「きれいな景色ですね」が、番組のナレーションの一部のように聞こえました。   | 「～でも」強調しない。「生まれ育った」の文を大切に。地の文をきちんと表現して。   |
| 30  | プール  | 米島 明寿花 | 363    | 素直な発声だと思いましたが、表現が単調な面もあります。音の高低をもう少し広く使えるとよりよくなると思います。                        | 「みるとー」のように助詞が伸びる箇所がありました。「かんちたのである」になってしまった。「サル」の「矢が」になってしまいました。「したがつて」が強調されてしまいました。   | 著者名アクセント注意。語尾下がっていない。丁寧に読んでいる。文末処理。表現工夫しようとしている。間、スピードGood。イメージがわく読み方。場面の雰囲気出していない。おどろおどろしさや緊迫感を描こう。なぜこの作品を選んだ？ 丁寧に読んではいらぬ。   |
|     |      |        |        |   | 急に良い声になりましたね。その声を生かせるような作品や場面を抽出したほうが良かったと思います。  | ポツリの意味、想像してセリフに生かすべき。「と」強い。単調。地の文しっかり。  |
| 31  | 桃山学院 | 本間 健八  | 349    | 自分のペースで読んでしまっているところがあります。文の意味を伝える音の高低や間の取り方を確認してみてください。                       | ややマイクから遠かったかな？「熱い」のアクセントは中高です。「湯気に…恐れがある」までひと塊です。「その穴から…した」までひと塊。「弟子の層が」が気障になってしまった。「だろうと思つた」が不自然。「ように」の立て直しも要らない。「両足に…はじめた」までひと塊。「ん弟子の層は」になっています。弟子はどんな口調で聞いたかな？                | 声よい。間の工夫がほしい。「～だろうと思つたから」の「と」は上げない。喉に力がかかっているか？ 間の工夫あるともっと良くなる。低すぎて苦しい？ 意味を伝えて。気持ちよく自分のリズムに乗っているだけに聞こえます。自分勝手な読みです。   |
|     |      |        |        |   | 「おまーず」になった。「aの人とbの人」の高さがばらばらでした。   | うねりあり。「かなしさ」アクセント×。「昔」低い。「生まれ～」の一文の重要性。一定。意味わかって読んでいますか？  |

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 朗読部門 審査結果および講評

上段は自分の原稿についての講評、下段は課題原稿についての講評

| 審査順 | 学校名  | 名前    | 得点/500 | 北郷主審講評   | 安田先生講評  | 顧問審査員講評  |
|-----|------|-------|--------|--|---|--|
| 32  | 相愛   | 木村 音葉 | 2位     | 音の高低の使い方がよく、意味が伝わってきました。間も工夫していることが感じられました。                        | 作者名だけ低くなりました。「習う」のアクセントが不鮮明。「そんすうの」に聞こえました。「…頭には」のあとは、「金の」と「角」を両方立て直してもいいと思います。<br>「運転手さんは」が再低音まで下がってしまった。「ゆった」に聞こえました。   | セリフよい。丁寧に読んでいる。話している自然さで表現している。イメージできる読み方。落ち着いた読み。セリフの読み雰囲気出ている。内容伝わってきます。「そっと」の表現。<br>ところどころ早くながち。「悲しさ」をなげ下げる？ 地の文やや速いか。  |
| 33  | 四天東  | 石川 日菜 | 348    | 本の向こうにいる人を想像して読んでみてください。'伝える' という気持ちをもっと強く持てると変わるのではないかと思います。      | 「子どもたち」だけ嬉しそうでした。「きかすた」に聞こえます。「すなわって」に聞こえます。「生徒たち」の「とた」が不鮮明。「わらえながら」に聞こえます。「こどもだち」に聞こえます。さすがにこれだけ不鮮明な音が多いと、日ごろから放送活動をしている人とは考えにくいので、高い評価は難しいです。「こんなこと岡の講師」？<br>「運転手さんになったら」になっています。「来るしと」になってしまった。                | タイトルの後ろに間がほしい。「きかせた」の「せ」がすべっている。「ならした」下がっていない(語尾)。もっと淡々と。一語一語をもっと大切に。直也は何歳？ 母音、滑舌。もう少しクリアに。少しうねり残る。イメージできるスピードはGood。音がややつづがれている。成長しようとする本能、「本能」をしっかりと立てよう。セリフ良い。やや速いか。雰囲気だけはよい。<br>「神通大橋」一語で読む。「わあ」感情入れすぎ。「生まれ～」で切り替える。          |
| 34  | 梅花   | 井倉 由翔 | 355    | 意味の伝わる高低がとれていると感じました。低い音をより使えるようになると、表現の幅が広がるように思います。              | ややマイクから遠かったかな？ 「た」で終わる文が、横開きになりやすいです。癖になっていると思います。「とでも」から急に高いのはおかしいです。最低音まで下がるのは文末だけにしてほしいです。ニュースやお知らせなども読んで、放送部アナウンサーとしての力をつけてほしいです。<br>「おもあず」になった。読みの中心線が決まっていないように感じます。  | 間の工夫がほしい。一本調子に聞こえる。フレージングに工夫を。単調に感じる。表現変化させようとしている。文末が消える。ペース一定でやや速い。「鹿鳴館」上ずり。聞き手が置いてきぼりになって、語り手が勝手に進んでいっている感じ。<br>「かなしさ」アクセント×。地の文暗い。「うまれ～」の一文切り替えて。低くて苦しそう。  |
| 35  | 浪速   | 吉尾 優里 | 343    | 本の向こうの誰かに伝えようという気持ちをもっと強く持って読んでみるとよりよくなると思います。                     | マイクから遠すぎだと思います。「よそら」に聞こえます。並列の情報が、だんだん低く暗く怖くなっていきました。「くぐもった…別世界だ」までひと塊だと思います。「にわかにな…表す」までひと塊だと思います。<br>普段の話し方よりも速く読んでしまったのでは？   | 地の文暗い。もう少し明るくても…。夏なのだ、前の文と同じスピードでよいか。最後の一分づつ切り。文節考えて。語尾下がっていない。「聞」だからと言って暗く弱く低く読む必要はない。「なりを潜める」間の工夫もう少し欲しい。同じリズムで読んでいる。間やスピードはいい。マイクにのっていないのもったいない。場面の雰囲気を伝えるように語る。「ろうそくっていいよね」っていう話です。暗い話ではない。<br>もう少し明るくてもいいのでは。意味わかって読んでいますか？ |
| 36  | 桃山学院 | 東浦 愛夏 | 6位     | 丁寧に落ち着いた読みで好感が持てました。古典は自分の伝えてとしての立ち位置をどこに置か難いと感じています。設定を考えてみてください。 | 「はくたい」の「く」は無声化。みんなが知ってる言葉だから、けっこう気になる。大昔の文章だとしても、読んでいるのは今生きているあなたです。普段の声をそのまま使ってほしいです。低くなりすぎだと思います。「松島」の「つ」は無声化。俳句の「くさのとも」が、さすがに低くなりすぎてぼそぼそでした。<br>うまく切り替えたと思います。この語り口を聞いてしまうと、古文ではなく現代文を読んだほうがうまくいったのでは…と思えてきます。 | 「多く」下がっていない。語尾の処理が甘い。終わり部分もう工夫を。ときどきスピードが早くなる箇所あり。コントロールするともっと良くなる。「過客」アクセント。意味を考えて伝えるというよりも古典のリズムに乗っているだけに聞こえる。もう少しメリハリが出せるはず。間一定。<br>「全然知らなかった」の表現工夫がほしい。しっかり意味を理解して読んでいた。   |